

科目名		【 アテレコアフレコ 】 スタジオ NA 実践(1)	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
学科・コース		エンターテインメント総合科、声優コース、声優&スタッフコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	岩尾亮
教員の略歴		俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍。舞台の他、テレビ番組、CMナレーション、楽曲制作など活動は多岐にわたる。						
授業の学習内容		①実践に近い形でのナレーション技術を得るために必要な基礎を学ぶ ②実技を伴う「演技」が非常に大切である事を知る ③プロになるのは非常に困難な業種。どのようにこれからの人生に活かすかを学んでほしい ①～③から、スタジオ実習のみならず、あらゆる角度から楽しめる授業を目指す。						
到達目標		スタジオでの所作を学び、簡単なナレーションの実践、オーディオドラマの制作が行えるようになる						
評価方法と基準		定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	身体のウォーミングアップの方法、発声練習のメソッドを覚える(前半)
2	身体のウォーミングアップの方法、発声練習のメソッドを覚える(後半)
3	スタジオでの所作について、マイクの扱い方、自分の声を録音して聞いてみる
4	感情を動かすための準備、エチュード
5	ナレーションとは何か、なぜ必要か、「聞く」と「やる」の違いを知る
6	15秒CMナレーションの実習、テクニックを学ぶ
7	言葉を使わない身体表現、パントマイム、ゼスチャー、気持ちを伝える訓練をする
8	ドラマ制作1「グループ分け・作品の打合せ」
9	ドラマ制作2「簡単なストーリーを作ってみる」
10	ドラマ制作3「録音」(前半)収録方法を学ぶ
11	ドラマ制作4「録音」(後半)実際に収録を行う
12	ドラマ制作5「マスタリング、CD焼きこみ作業」
13	イベント週準備、アフレコ演目決め
14	イベント週準備、本番に向けたアフレコ練習
15	イベント週本番、アフレコ実践を通して演技力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名		【 アテレコアフレコ 】		必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
		スタジオ NA 実践(2)		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	岩尾亮
学科・コース	エンターテインメント総合科、声優コース、声優&スタッフコース								
教員の略歴	俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍。舞台の他、テレビ番組、CMナレーション、楽曲制作など活動は多岐にわたる。								
授業の学習内容	①実践に近い形でのナレーション技術を得るために必要な基礎を学ぶ ②実技を伴う「演技」が非常に大切である事を知る ③プロになるのは非常に困難な業種。どのようにこれからの人生に活かすかを学んでほしい ①～③から、スタジオ実習のみならず、あらゆる角度から楽しめる授業を目指す。								
到達目標	スタジオでの所作を学び、簡単なナレーションの実践、オーディオドラマの制作が行えるようになる								
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する								

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	感情開放のためのエチュード、身体が反応することの重要性を知る
2	ミュージカル練習、ダンス・演技を学ぶ
3	ミュージカル練習、ダンス・演技の復習
4	CMナレーション(15秒・30秒)を実践する
5	CMナレーション(長尺・モノログ)を学ぶ
6	台本の読み方1(状況把握をできるように)
7	台本の読み方2(空間の解釈、たたずまいについて掴めるように)
8	作品鑑賞「オーディオドラマ・FMシアター」
9	オーディオドラマ(ラジオコント)実習から、難しさを知る
10	ワークショップ・群集に対して発表する行為、人前で緊張せず話す能力とはなにかを知る
11	ナレーション(長尺)、朗読の実習
12	オーディオドラマ・脚本制作を学ぶ
13	オーディオドラマ・録音を学ぶ
14	オーディオドラマ・発表会
15	we are本番、朗読劇の発表を行う
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名		【 アフレコアテレコ スタジオ NA 実践(3) 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース		エンターテインメント総合科、声優コース、声優&スタッフコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	岩尾亮
教員の略歴		俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍。舞台の他、テレビ番組、CMナレーション、楽曲制作など活動は多岐にわたる。						
授業の学習内容		①実践に近い形でのナレーション技術を得るために必要な基礎を学ぶ ②実技を伴う「演技」が非常に大切である事を知る ③プロになるのは非常に困難な業種。どのようにこれからの人生に活かすかを学んでほしい ①～③から、スタジオ実習のみならず、あらゆる角度から楽しめる授業を目指す						
到達目標		1年生で学んだことを活かし、スタジオでの所作・ナレーションの実践・オーディオドラマの制作の応用をおこなう						
評価方法と基準		定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	身体のウォーミングアップの方法の応用(前半)
2	発声練習のメソッドの応用(後半)
3	スタジオでの所作について、マイクの扱い方、自分の声を録音して聞いてみる
4	感情を動かすための準備、エチュードの応用
5	ナレーションとは何か、なぜ必要か、「聞く」と「やる」の違いを知る
6	15秒CMナレーションの実習、テクニックの応用
7	言葉を使わない身体表現、パントマイム、ゼスチャー、気持ちを伝える訓練をする
8	ドラマ制作1「グループ分け・作品の打合せ」グループワークを学ぶ
9	ドラマ制作2「簡単なストーリーを作ってみる」ストーリーの組み方を学ぶ
10	ドラマ制作3「録音」(前半)収録方法を学ぶ
11	ドラマ制作4「録音」(後半)実際に収録を行う
12	ドラマ制作5「マスタリング、CD焼きこみ作業」
13	イベント週準備、アフレコ演目決め
14	イベント週準備、本番に向けたアフレコ練習
15	イベント週本番、アフレコ実践を通して演技力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名	【 アフレコ・アテレコ スタジオ NA 実践(4) 】		必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
	学科・コース	エンターテインメント総合科、声優コース、声優&スタッフコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	岩尾亮
教員の略歴	俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍。舞台の他、テレビ番組、CMナレーション、楽曲制作など活動は多岐にわたる。							
授業の学習内容	①実践に近い形でのナレーション技術を得るために必要な基礎を学ぶ ②実技を伴う「演技」が非常に大切である事を知る ③プロになるのは非常に困難な業種。どのようにこれからの人生に活かすかを学んでほしい ①～③から、スタジオ実習のみならず、あらゆる角度から楽しめる授業を目指す。							
到達目標	1年生で学んだことを活かし、スタジオでの所作・ナレーションの実践・オーディオドラマの制作の応用をおこなう							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	感情開放のためのエチュード、身体が反応することの重要性を知る
2	ミュージカル練習、ダンス・演技を学ぶ
3	ミュージカル練習、ダンス・演技の復習
4	CMナレーション(15秒・30秒)を実践し、自分の実力を知る
5	CMナレーション(長尺・モノローグ)経験を活かし、実践する
6	台本の読み方1(作品を知るすべを学ぶ)
7	台本の読み方2(空間の解釈を知る)
8	作品鑑賞「オーディオドラマ・FMシアター」周囲の評価を知る
9	オーディオドラマ(ラジオコント)実習から、難しさを知る
10	ワークショップ・群集に対して発表する行為、人前で緊張せず話す能力とはなにかを知る
11	ナレーション(長尺)、朗読の実習を行い実力を測る
12	オーディオドラマ・脚本制作を行う
13	オーディオドラマ・録音を行う(応用)
14	オーディオドラマ・発表会、学んだことの実力を測る
15	we are本番、朗読劇の発表を行う

【使用教科書・教材・参考書】 □

科目名	【 作詞・作曲・編曲 】 ミュージックセオリー (1)	必修 選択	必修	年次	1	開講区分	前期
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	担当教員	向坂千恵子
学科	エンターテインメント総合科						
教員の略歴	札幌大谷短期大学音楽科にてピアノ実技、和声法・対位法など音楽理論を学ぶ。 ピアノ講師として音楽理論も踏まえたレッスン指導や、イベントでの演奏を行う。 札幌校開校時より音楽理論の講義を担当している。						
授業の学習内容	音楽の言語となるもので、音楽コミュニケーションの基本から学ぶ。演習授業に必要な楽譜に対する理解を深め、演奏時の表現に活用できるようにする。また作曲・編曲アレンジの知識を身につけ、実践的な要素も養う。						
到達目標	楽譜から、調・メロディ内やハーモニーの音程・速さや強さ・奏法を読み取り、判断できるようにする。音ではなく譜面上の音符から、楽曲のイメージを膨らませる事が目標となる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	古代ギリシャの音楽理論から音楽の起源を知る。
2	楽譜の基礎知識(音名、変化記号等)を理解する。
3	音符、休符、連符について理解する。
4	単純拍子、複合拍子を理解する。楽曲を聴き単純拍子と複合拍子の違いを認識する。
5	混合拍子(変拍子)を理解する。複雑な混合拍子の楽曲を聴き、強拍を認識する。
6	強起と弱起(アウフタクト)を理解する。シンコペーション、様々なリズムパターンを聴き体感する。
7	長音階(メジャースケール)を理解する。
8	短音階(マイナースケール)を理解する。
9	音程(長短系の度数)を理解する。
10	音程(完全系の度数、複音程)を理解する。音階、音程の小テストを実施する。
11	調の相互関係(同主調、平行調、属調、下屬調)を理解する。
12	転調、移調を理解する。五線譜に様々な調の移調を実施する。
13	反復記号、速度に関する記号、強弱記号について理解する。
14	省略記号、奏法記号、装飾記号について理解する。
15	前期の総復習、前期末テストを実施する。
【使用教科書・教材・参考書】 □ MUSIC THEORY(教科書)、ワークブック(問題集)	

科目名	【 作詞・作曲・編曲 】 ミュージックセオリー (2)	必修 選択	必修	年次	1	開講区分	後期
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	担当教員	向坂千恵子
学科	エンターテインメント総合科						
教員の略歴	札幌大谷短期大学音楽科にてピアノ実技、和声法・対位法など音楽理論を学ぶ。 ピアノ講師として音楽理論も踏まえたレッスン指導や、イベントでの演奏を行う。 札幌校開校時より音楽理論の講義を担当している。						
授業の学習内容	音楽の言語となるもので、音楽コミュニケーションの基本から学ぶ。演習授業に必要な楽譜に対する理解を深め、演奏時の表現に活用できるようにする。また作曲・編曲アレンジの知識を身につけ、実践的な要素も養う。						
到達目標	それぞれのコードの機能(役割)、コードワークにおける一音の大切さを認識し、楽譜から楽曲の大まかな音の流れを理解できるようにする。 音符の縦(コード)と横(各パート)の動きを見だし、楽曲の構成を判断できるようにする事が目標となる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	音階、音程の復習をする。基本的なコード構成、コードネームを理解する。
2	3和音(Triad)の構成を理解する。
3	4和音(7thコード)の構成を理解する。
4	3和音、4和音の構成について復習する。3和音、4和音の小テストを実施する。
5	コードの転回形について理解し、基本形と転回形の響きの違いを確認する。メジャーダイアトニックコードについて理解する。
6	メジャーダイアトニックの機能を理解する。
7	各ケーデンス、定番コードパターンなど、コードワークの基礎を修得する。
8	マイナーダイアトニックコード、マイナーダイアトニックの機能を理解する。
9	マイナーキーにおけるコードワークの基礎を修得する。
10	コードワークの小テストを実施する。様々な代理コードを理解し、代理コードを用いたコード進行を聴き、変化を認識する。
11	特殊なコード(6th、sus4、add9など)を理解する。テンションについて理解する。
12	テンションを含むコードワークを修得する。
13	アベイラブルノートスケール、その他様々なスケール(ブルーノート、ペントニックなど)について理解する。
14	ノンコードトーン(非和声音)を理解する。
15	後期の総復習、後期末テストを実施する。
【使用教科書・教材・参考書】 □ MUSIC THEORY(教科書)、ワークブック(問題集)	

科目名	【 ヴォイストレーニング リズム&ヴォーカル(1) 】	必修 選択	必修選 択	年次	1	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	三藤淳
教員の略歴	北海道芸術高等学校 講師・MIミュージックジャパン アーティスト7年 エッグ アーティスト19年 個人レッスン楽曲制作25年						
授業の学習内容	リズム感を養い、音程、声量など高めるための授業、演技の授業、アフレコの授業などとも関係を持ち 歌唱力を高め、話しや会話をするように歌を歌えるようにする。						
到達目標	ステージやミュージカルに対応できるパフォーマンスを目指す						
評価方法と基準	定期試験(出席率、実技、レポート等)の成績により評価						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	リズムトレーニング 発声練習 毎レッスン開始前のアップの仕方を学ぶ
2	リズムトレーニング 発声練習 以降 毎日復習確認を心掛ける
3	リズムトレーニング 発声練習 ストレッチ 腹式呼吸
4	リズムトレーニング 発声練習 ストレッチ 腹式呼吸を学ぶ
5	歌唱表現 ダイナミクスをつける
6	歌唱表現 表現力を身につける
7	歌唱表現 詩の内容を理解する、考える力を付ける
8	歌唱力を高める 声量、細かな音程、ニュアンスを繊細に 小テスト
9	歌唱力を高める 声量、細かな音程、ニュアンスを繊細に声の出し方を学ぶ
10	発声 歌唱 出来ていないところをチェック 実力を知る
11	パフォーマンス 身振り手振りや躰を使って演じる 体の使い方を学ぶ
12	パフォーマンス 身振り手振りや躰を使って演じる テスト
13	イベント準備、歌唱力の応用を学ぶ
14	イベント準備、パフォーマンス力の応用を学ぶ
15	イベント本番を通じてパフォーマンス力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 ヴォイストレーニング リズム&ヴォーカル(2) 】	必修 選択	必修選 択	年次	1	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	三藤淳
教員の略歴	北海道芸術高等学校 講師・MIミュージックジャパン アーティスト7年 エッグ アーティスト19年 個人レッスン楽曲制作25年						
授業の学習内容	リズム感を養い、音程、声量など高めるための授業、演技の授業、アフレコの授業などとも関係を持ち歌唱力を高め、話しや会話をするように歌を歌えるようにする。						
到達目標	ステージやミュージカルに対応できるパフォーマンスを目指す						
評価方法と基準	定期試験(出席率、実技、レポート等)の成績により評価						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	リズムトレーニングを行う、発声練習の基礎を知る
2	リズムトレーニングを行う発声練習の基礎の実践
3	ミュージカル週、本番に向けた歌唱力を身につける
4	ミュージカル週、本番に向けた表現力を身につける
5	ミュージカル 実技レッスン 体の使い方の基礎を知る
6	ミュージカル 実技レッスン 声の出し方の基礎を学ぶ
7	ミュージカル 実技レッスン 歌の基礎を学ぶ
8	ミュージカル 実技レッスン 声と体を同時に動かし、体感を鍛える
9	ミュージカル 実技レッスン 声と体を同時に動かし、リズム感をつかむ
10	ミュージカル 実技レッスン 演技力を見につける
11	歌唱表現① 音に感情をのせる方法を学ぶ
12	歌唱表現② 音に感情をのせる方法を学ぶ(応用)
13	自主公演を通じて、リハーサル、本番を経験する。
14	総合評価、テストを行い実力を測る
15	we are本番を通して、舞台に立つ力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名		【 ヴォイストレーニング リズム＆ヴォーカル(3) 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	三藤 淳
教員の略歴	北海道芸術高等学校 講師・MIミュージックジャパン アーティスト7年 エッグ アーティスト19年 個人レッスン楽曲制作25年							
授業の学習内容	リズム感を養い、音程、声量など高めるための授業、演技の授業、アフレコの授業などとも関係を持ち歌唱力を高め、話しや会話をするように歌を歌えるようにする。							
到達目標	ライブや舞台において、歌唱技術、ステージパフォーマンスなどのスキルを高め、また、アイデアを広げ考えてイメージしたものに近づけることを目標とする。							
評価方法と基準	定期試験(出席率、実技、レポート等)の成績により評価							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	リズムトレーニング① リズムの基礎知識を学ぶ
2	リズムトレーニング② 発声の基礎知識を学ぶ
3	ソルフェージュ スケール 移動 発声しながら音階を学ぶ ア行
4	ソルフェージュ スケール 移動 発声しながら音階を学ぶ 濁音の発音
5	ソルフェージュ スケール 移動 発声しながら音階を学ぶ 外国語の発音
6	リズム感の小テストを行い、実力を測る
7	声質と個性① 自分の声質を知る 声質の幅を知る
8	声質と個性② 自分の声質を知る 音域を学ぶ
9	歌唱表現① 自分の歌唱力を知り、足りない部分を学ぶ基礎
10	歌唱表現② 自分の歌唱力を知り、足りない部分を学ぶ応用
11	歌唱表現③ パフォーマンス、表現方法を知り、足りない部分を学ぶ
12	一人一人の実技を確認し、総合評価をおこなう
13	イベント準備、歌唱力の応用を学ぶ
14	イベント準備、パフォーマンス力の応用を学ぶ
15	イベント本番を通じてパフォーマンス力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 ヴォイストレーニング リズム&ヴォーカル(4) 】	必修 選択	必修選 択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	三藤淳
教員の略歴	北海道芸術高等学校 講師・MIミュージックジャパン アーティスト7年 エッグ アーティスト19年 個人レッスン楽曲制作25年						
授業の学習内容	リズム感を養い、音程、声量など高めるための授業、演技の授業、アフレコの授業などとも関係を持ち歌唱力を高め、話しや会話をするように歌を歌えるようにする。						
到達目標	ライブや舞台において、歌唱技術、ステージパフォーマンスなどのスキルを高め、また、アイデアを広げ考えてイメージしたものに近づけることを目標とする。						
評価方法と基準	定期試験(出席率、実技、レポート等)の成績により評価						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	リズムトレーニング ソルフェージュ(基礎訓練)を行い、知識を身につける
2	リズムトレーニング ソルフェージュ(応用)を行い、知識を身につける
3	ミュージカル週、本番に向けた歌唱力を身につける
4	ミュージカル週、本番に向けた表現力を身につける
5	ステージング パフォーマンス 歌と演技をする上での知識を学ぶ
6	ステージング パフォーマンス 実践的なレッスンを通してリズム感を鍛える
7	ステージング パフォーマンス 実践的なレッスンを通してパフォーマンス力を高める
8	ミュージカル 実技レッスン 声と体を同時に動かし、リズム感をつかむ
9	ミュージカル(歌)の小テストを行い自分の実力を知る
10	ミュージカル 実技レッスン 声と体を同時に動かし、リズム感をつかむ
11	ミュージカル 実技レッスン 演技力を見につける
12	ミュージカル 実技レッスン 実践的なレッスン パフォーマンスの向上
13	ミュージカル 実技レッスン 実践的なレッスン
14	総合評価、テストを行い実力を測る
15	we are本番を通して、舞台に立つ力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名		【 楽器演奏 演技表現【実践】(1) 】	必修 選択	必修	年次	1	開講区分	前期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	山崎大昇
教員の略歴	俳優、監督、キャスティングとして北海道にて活動中							
授業の学習内容	演じる準備、演じる機会を自分で作る。演じ続ける事をしていく為に必要な能力を身につける。演技力・基礎力はもちろん、それ以外の魅力を磨いていきましょう							
到達目標	声を磨く事以外で、声優に必要な魅力、器用さ、対応力を実践的に学びなんでも出来る力を身につける							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	俳優として生きる事を意識する。仲間を知る
2	映像演技を実践する
3	短編の脚本を読み、実際に演じてみる
4	出演者オーディションを行う(短編アテレコ)
5	配役が決まり、スタッフイングも決める
6	短編作品アテレコ上映会準備 作品に対する理解力を高める
7	アテレコリハーサル→イベント本番 本番を通して演技力を高める
8	上映作品鑑賞、各自演じる機会を探す
9	演じる機会を自分たちで企画 企画力を高める
10	企画した内容を始動する
11	実行中の企画の現状報告 & アドバイス
12	企画した作品の発表
13	イベント週、動き・表情の演技の応用
14	イベント週、合わせ稽古を行うことで本番に近い演技方を身につける
15	イベント週を通して演技力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名		【 楽器演奏 】 演技表現【実践】(2)	必修 選択	必修	年次	1	開講区分	後期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	山崎大昇
教員の略歴	俳優、監督、キャスティングとして北海道にて活動中。							
授業の学習内容	声優としていくら演技力を身につけても出演する機会がなくてはならない。演技力、基礎力を磨きつつ、実際に演じる機会を得る。俳優として生きていく為の術を実践的に体験してもらいます							
到達目標	生徒がプロダクションに所属出来るように、作品に出演できるようにサポート。その為に必要な「人間力」「使いたくなる力」「応援される力」を身につける							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	声優として生きる事の再確認&環境を広げる、仲間を増やす
2	映像技術を実践 基礎知識を学ぶ
3	ミュージカル週、本番に向け実践的な稽古を行う 歌唱力を身につける
4	ミュージカル週、身につけた演技の応用、演技力を身につける
5	中編ドラマ アテレコ制作準備 制作の過程を学ぶ
6	中編ドラマ アテレコオーディション 自分の役割を知る
7	中編ドラマ アテレコ出演者決定、スタッフイング→アフレコ
8	アテレコ現場での反省 実力を知り向上をはかる
9	自主短編映画祭企画会議 プレゼン法を学ぶ
10	中編ドラマアフレコ 上映&反省
11	自主短編映画祭出演者作品締め切り 聞く力を向上させる
12	映画祭作品選考 自分の作品の評価を知る
13	映画祭準備 機材回りを学ぶ
14	映画祭の反省、今後の取り組みについて思案する
15	we are本番、本番を通して演技力を磨く
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名		【 制作演習 】 演技表現【実践】(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	山崎大昇
教員の略歴	俳優、監督、キャスティングとして北海道にて活動中							
授業の学習内容	演じる準備、演じる機会を自分で作る。演じ続ける事をしていく為に必要な能力を身につける。演技力・基礎力はもちろん、それ以外の魅力を磨いていきましょう。							
到達目標	声を磨く事以外で、声優に必要な魅力、器用さ、対応力を実践的に学びなんでも出来る力を身につける。							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	俳優として生きる事を意識する。仲間を知る
2	映像演技を実践する
3	短編の脚本を読み、実際に演じてみる
4	出演者オーディションを行う(短編アテレコ)
5	配役が決まり、スタッフイングも決める
6	短編作品アテレコ上映会準備
7	アテレコリハーサル→イベント本番を経験する
8	上映作品鑑賞、各自演じる機会を探す
9	演じる機会を自分たちで企画、率先力を身につける
10	企画した内容を始動する、実現させる力を身につける
11	実行中の企画の現状報告&アドバイス
12	企画した作品の発表、経験を活かし発表する
13	イベント週、合わせ稽古を行い実践力を身につける
14	イベント週合わせ稽古を行い演技の幅を広げる
15	イベント週本番を通して観客のいる演技方を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名 【 制作演習 】 演技表現【実践】(4)		必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	山崎大昇
教員の略歴	俳優、監督、キャスティングとして北海道にて活動中。						
授業の学習内容	声優としていくら演技力を身につけても出演する機会がなくてはならない。演技力、基礎力を磨きつつ、実際に演じる機会を得る。俳優として生きていく為の術を実践的に体験してもらいます。						
到達目標	生徒がプロダクションに所属出来るように、作品に出演できるようにサポート。その為に必要な「人間力」「使いたくなる力」「応援される力」を身につける。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	声優として生きる事の再確認&環境を広げる、仲間を増やす
2	映像技術を実践、映像技術を身につける。機材回りを知る
3	ミュージカル週、演技力の向上をはかる
4	ミュージカル週、歌・演技・技術の応用を行う
5	中編ドラマ アテレコ制作準備、制作過程を学ぶ
6	中編ドラマ アテレコオーディション 自分の実力を測る
7	中編ドラマ アテレコ出演者決定、スタッフイング→アフレコ 自分の役割を知る
8	アテレコ現場での反省 自分に足りない部分を知り補う
9	自主短編映画祭企画会議 プレゼンテーションのやり方を学ぶ
10	中編ドラマアフレコ 上映&反省 見る力・聞く力の向上をはかる
11	自主短編映画祭出演者作品締め切り 技術力を高める
12	映画祭作品選考、自分の作品の評価を知る
13	映画祭準備、本番を行い自分の技術を高める
14	映画祭の反省、これからの演技方について考える
15	we areを通して演技の見せ方を学ぶ
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名	【映像技術】 アニメカルチャー概論(1)	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	小新井涼
教員の略歴	三木プロダクション所属。2.5次元舞台やアニメラジオ出演を経て現在大学院でアニメを研究しつつアニメコラムの連載やアニメイベントのMCを行う。						
授業の学習内容	アニメの作品本数が増える昨今、全て視聴できずとも常に最新情報を把握し、アニメに関する基礎知識を身につけておくことは、これから製作の現場に入っていく者の必須項目である。 当講義はそれを踏まえて、まず歴史的に重要な作品の視聴や解説を通じて基礎知識を身につけ、志望先となるアニメ制作現場への理解を深める。 また、放送・配信・公開中の作品や最新のメディアミックス展開について自由なディスカッションを行い、現在のアニメ業界のトレンドを読み解き、理解する力を養う。						
到達目標	授業を通じて、卒業後の現場でも活用できるアニメ文化の基礎知識を習得すること。 また、現在のアニメ業界への理解を深めることで、自らの希望進路の業界とアニメ業界との関係性を把握すること。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	授業概要説明、自己紹介:自身の現在の志望先や知識量を客観視し、紹介することができる
2	2020年春アニメ解説:放送中作品の基礎知識を身につけることができる
3	アニメ製作の仕組み:プリプロとポストプロの違い・自分が志望する業種の位置づけが把握できる
4	主要制作会社を知る:アニメの制作現場の基礎知識を身につけることができる
5	スタッフクレジットの読み解き方:製作に携わる役職や主要人物を把握することができる
6	近年注目を集めるクリエイターについて:アニメ製作に関する基礎知識を身につけることができる
7	制作・製作以外の業種について:自らの志望先以外の業種も把握・理解できる
8	2.5次元作品とアニメとの関係性:2.5次元作品の製作方法や志望先との関わりを理解できる
9	2020年上半期のアニメ業界総括:業界の最新トレンドや注目作品を把握・理解することができる
10	2020年夏アニメ解説:放送中作品の基礎知識を身につけることができる
11	アニメ制作メーカーの解説:製作の要となるメーカーについての基礎知識を身につけることができる
12	テスト・課題の実施及び前期の総括
13	イベントを通してアニメ文化史のこれからの考察することができる
14	イベントを通して2020年アニメの総括ができる
15	イベントを通して2020年アニメ業界のトレンドを理解することができる
【使用教科書・教材・参考書】 □ 必要に応じ資料を適宜配布する。	

科目名	【映像技術】 アニメカルチャー概論(2)	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	小新井涼
教員の略歴	三木プロダクション所属。2.5次元舞台やアニメラジオ出演を経て現在大学院でアニメを研究しつつアニメコラムの連載やアニメイベントのMCを行う。						
授業の学習内容	アニメの作品本数が増える昨今、全て視聴できずとも常に最新情報を把握し、アニメに関する基礎知識を身につけておくことは、これから製作の現場に入っていく者の必須項目である。 当講義はそれを踏まえて、まず歴史的に重要な作品の視聴や解説を通じて基礎知識を身につけ、志望先となるアニメ制作現場への理解を深める。 また、放送・配信・公開中の作品や最新のメディアミックス展開について自由なディスカッションを行い、現在のアニメ業界のトレンドを読み解き、理解する力を養う。						
到達目標	授業を通じて、卒業後の現場でも活用できるアニメ文化の基礎知識を習得すること。 また、現在のアニメ業界への理解を深めることで、自らの希望進路の業界とアニメ業界との関係性を把握すること。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	夏休み期間中の劇場作品及びイベント興行の解説:最新の関連興行情報を把握できる
2	2020年秋アニメ解説:放送中作品の基礎知識を身につけることができる
3	ライブやイベントに携わる業種・企業の解説:イベント興行に関わる業種や関連企業を把握できる
4	歴史的な作品を知る①昭和編:重要作品と関わるスタッフ、現在の作品との繋がりを把握できる
5	アニメ業界を描いたアニメの視聴・解説:視聴を通して志望先の基礎知識を身につけることができる
6	歴史的な作品を知る②平成編:重要作品と関わるスタッフ、現在の作品との繋がりを把握できる
7	異業種コラボ解説:志望先がアニメ業界外とどのような関わりを持つのか把握することができる
8	歴史的な作品を知る③2010年代以降編:動画配信興隆以降の文化史的な流れを把握できる
9	2020年アニメ業界総括:ヒット作やニュースを振り返り1年間のトレンドを把握することができる
10	コミケからみる商業と二次創作の違い:プロ・アマの境界線や互いの不可侵領域を把握できる
11	2020年冬アニメ解説:放送中作品の基礎知識を身につけることができる
12	テスト・課題の実施及び後期の総括
13	we areを通してアニメ文化史のこれからを考察することができる
14	we areを通して2020年アニメの総括ができる
15	we areを通して2020年アニメ業界のトレンドを理解することができる
【使用教科書・教材・参考書】 □ 必要に応じ資料を適宜配布する。	

科目名	【映像技術】 アニメカルチャー概論(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	小新井涼
教員の略歴	三木プロダクション所属。2.5次元舞台やアニメラジオ出演を経て現在大学院でアニメを研究しつつアニメコラムの連載やアニメイベントのMCを行う。						
授業の学習内容	アニメの製作本数が増える昨今、全ての作品視聴ができずとも常に最新情報を把握し、アニメに関する知識を身につけておくことは、これからアニメ製作の現場に入っていく者の必須項目である。 当講義はそれを踏まえて、まず一年時に得た基礎知識を基に、より専門的な知識を身につける。 また、放送・配信・公開中の作品や最新のメディアミックス展開について自由なディスカッションを行い、現在のアニメ業界のトレンドを読み解き、理解する力を養う。						
到達目標	授業を通じて、卒業後の現場でも活用できるアニメ文化の専門知識を習得すること。 また、現在のアニメ業界への理解を深めることで、自らの希望進路の業界とアニメ業界との関係性を把握すること。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	習得した技術をもとに、自身の現在の志望先や知識量を客観視し、紹介することができる
2	2020年春アニメ解説:放送中作品の基礎知識を身につけ、プレゼンすることができる
3	プリプロとポストプロの違い・自分が志望する業種の位置づけを把握し、客観視することができる
4	アニメの制作現場の基礎知識を身につけ、知識を深めることができる
5	製作に携わる役職や主要人物を把握し、知識を深めることができる
6	アニメ製作に関する基礎知識を身につけ、知識を深めることができる
7	自らの志望先以外の業種も把握・理解し、知識を深めることができる
8	2.5次元作品の製作方法や志望先との関わりを理解し、知識を深めることができる
9	業界の最新トレンドや注目作品を把握・理解し、知識を深めることができる
10	2020年夏アニメ解説:放送中作品の基礎知識を身につけ、知識を深めることができる
11	製作の要となるメーカーについての基礎知識を身につけ、知識を深めることができる
12	テスト・課題の実施及び前期の総括
13	イベントを通してアニメ文化史のこれからを考察することができる
14	イベントを通して2020年アニメの総括ができる
15	イベントを通して2020年アニメ業界のトレンドを理解することができる
【使用教科書・教材・参考書】 □ 必要に応じ資料を適宜配布する。	

科目名	【映像技術】 アニメカルチャー概論(4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	小新井涼
教員の略歴	三木プロダクション所属。2.5次元舞台やアニメラジオ出演を経て現在大学院でアニメを研究しつつアニメコラムの連載やアニメイベントのMCを行う。						
授業の学習内容	アニメの製作本数が増える昨今、全ての作品視聴ができずとも常に最新情報を把握し、アニメに関する知識を身につけておくことは、これからアニメ製作の現場に入っていく者の必須項目である。 当講義はそれを踏まえて、まず一年時に得た基礎知識を基に、より専門的な知識を身につける。 また、放送・配信・公開中の作品や最新のメディアミックス展開について自由なディスカッションを行い、現在のアニメ業界のトレンドを読み解き、理解する力を養う。						
到達目標	授業を通じて、卒業後の現場でも活用できるアニメ文化の専門知識を習得すること。 また、現在のアニメ業界への理解を深めることで、自らの希望進路の業界とアニメ業界との関係性を把握すること。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	最新の関連興行情報を把握し、知識を深めることができる
2	放送中作品の基礎知識を身につけ、知識を深めることができる
3	イベント興行に関わる業種や関連企業を把握し、知識を深めることができる
4	重要作品と関わるスタッフ、現在の作品との繋がりを把握し、知識を深めることができる
5	視聴を通して志望先の基礎知識を身につけ、知識を深めることができる
6	重要作品と関わるスタッフ、現在の作品との繋がりを把握し、知識を深めることができる
7	志望先がアニメ業界外とどのような関わりを持つのか把握し、知識を深めることができる
8	動画配信興隆以降の文化史的な流れを把握し、知識を深めることができる
9	ヒット作やニュースを振り返り1年間のトレンドを把握し、知識を深めることができる
10	プロ・アマの境界線や互いの不可侵領域を把握し、知識を深めることができる
11	放送中作品の基礎知識を身につけ、知識を深めることができる
12	テスト・課題の実施及び後期の総括
13	we areを通してアニメ文化史のこれからを考察することができる
14	we areを通して2020年アニメの総括ができる
15	we areを通して2020年アニメ業界のトレンドを理解することができる
【使用教科書・教材・参考書】 □ 必要に応じ資料を適宜配布する。	

科目名	【雑誌編集】 投稿対策(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	小島 千尋
教員の略歴	小説編集者。ライトノベル、実用書等の編集を経て、現在は大手出版社ファンタジーノベルの編集部に所属。						
授業の学習内容	ショートショートの執筆やミニコンテストへの応募、プロットの作成を通し、中長編を執筆する筆力を涵養する。						
到達目標	短編の公募「第一回かぐやSFコンテスト」「第17回坊ちゃん文学賞」「第一回ステキブンゲイ大賞」他への投稿。公募・コンテストに応募できる中編のプロット完成を目指す。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	(イントロダクション)作家になるために必要な知識を理解する
2	短編作文を理解する
3	かぐや小説大賞説明について理解し知識を身に付けることができる
4	ネタだしについて理解し応用することができる
5	140字小説／かぐや小説大賞執筆について理解し応用することができる
6	140字小説／かぐや小説大賞執筆を実践し応用することができる
7	書評 POP作成が実践し応用することができる
8	長編プロットネタだしについて理解する
9	長編プロット作成が実践できる
10	長編プロット作成が応用できる
11	長編プロットを完成させることができる
12	長編プロットを完成し、次回に向けて長編執筆を作成できる
13	イベントを通して投稿作品制作(長編)を企画することができる
14	イベントを通して投稿作品制作(長編)を執筆することができる
15	イベントを通して投稿作品制作(長編)を完成することができる
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名	【雑誌編集】 投稿対策(4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	小島 千尋
教員の略歴	小説編集者。ライトノベル、実用書等の編集を経て、現在は大手出版社ファンタジーノベルの編集部に所属。						
授業の学習内容	ショートショート of 執筆やミニコンテストへの応募、プロットの作成を通し、中長編を執筆する筆力を涵養する。						
到達目標	公募・コンテストに応募できる長編の本文完成を目指す						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	前期の復習・進捗確認
2	1年次で習得した技術をもとに、自己紹介作文を考える
3	1年次で習得した技術をもとに、自己紹介作文を制作することができる
4	1年次で習得した技術をもとに、ウェブ投稿へ向けた準備ができる
5	1年次で習得した技術をもとに、ウェブ投稿へ向けた執筆ができる
6	1年次で習得した技術をもとに、ウェブ投稿へ向けた制作ができる
7	1年次で習得した技術をもとに、コース内イベントへ向けた準備ができる
8	1年次で習得した技術をもとに、コース内イベントへ向けた執筆ができる
9	1年次で習得した技術をもとに、コース内イベントへ向けた制作ができる
10	1年次で習得した技術をもとに、中長編へ向けた準備ができる
11	1年次で習得した技術をもとに、中長編へ向けた執筆ができる
12	1年次で習得した技術をもとに、中長編へ向けた制作ができる
13	卒業・進級制作展を通して投稿作品制作(長編)を企画することができる
14	卒業・進級制作展を通して投稿作品制作(長編)を執筆することができる
15	卒業・進級制作展を通して投稿作品制作(長編)を完成することができる
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名 【 滑舌・アクセント フリートーク(1) 】		必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
学科・コース	エンターテイメント 総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	城野康子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす						
授業の学習内容	①「声優」としてだけでなく、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の養成 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策						
到達目標	③不特定多数を意識したフリートークの重要性と構成力(組み立て方)及び、コミュニケーション能力を高める						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	イントロダクション/ フリートークとは？
2	自己紹介①(ベーシック) 自己アピール力を向上させる
3	自己紹介②(自身が一番得意とする事、PRすべきポイントの言葉選び)
4	フリートークネタの探し方 トーク方を学ぶ
5	アナウンサー、DJ、パーソナリティー、youtuberの違い
6	フリートーク実践① 特定層に向けて
7	フリートーク実践② 不特定層に向けて
8	インタビューの進め方と受け答え① インタビュー方法を学ぶ
9	インタビューの進め方と受け答え② インタビューを実践する
10	レポーターとしての表現力とボキャブラリー
11	前期授業総括① 自己評価を知る
12	前期授業総括② 聞く力を身につける
13	イベント週、合わせ稽古を行い実践力を身につける
14	イベント週合わせ稽古を行い演技の幅を広げる
15	イベント週本番を通して観客のいる演技方を身につける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 滑舌・アクセント フリートーク(2) 】	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	城野康子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす						
授業の学習内容	①「声優」としてだけでなく、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の応用 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策						
到達目標	③前期で培ったフリートークの構成力とコミュニケーション能力にさらに磨きをかけ、オーディションに強いアピール力をつける						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	情報の発信と受け取り方(ラジオDJ、パーソナリティーとして)
2	フリートークと原稿読みの違い①
3	ミュージカル週、演技力の向上をはかる
4	ミュージカル週、歌・演技・技術の応用を行う
5	フリートークと原稿読みの違い②
6	イントネーションと方言を学ぶ
7	レポーターに求められるものとは? なにかを学ぶ
8	レポーター実践
9	フリートークとレポート、レスポンス① レポートの取り方を学ぶ
10	フリートークとレポート、レスポンス② レスポンスが上手くなる
11	ディスカッション(司会者の役割)①
12	ディスカッション(パネラーの役割)②
13	前期・後期総括① 自己評価を知る
14	前期・後期総括② 聞く力を養う
15	we areを通して演技の見せ方を学ぶ
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名 【 滑舌・アクセント フリートーク(3) 】		必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテイメント 総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	城野康子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす						
授業の学習内容	①「声優」としてだけでなく、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の養成 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策						
到達目標	③不特定多数を意識したフリートークの重要性と構成力(組み立て方)及び、コミュニケーション能力を高める						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	イントロダクション/ フリートークとは?
2	自己紹介(得意分野であるトピックを交えて)
3	フリートークについて(特別講師:DJ潮音)
4	フリートーク実践① 特定層に向けて
5	フリートーク実践② 不特定層に向けて
6	トピックの拾い方・情報収集について 基礎
7	インタビューの進め方
8	特別講師による講義を予定
9	映画や音楽を紹介する際のフリートークについて
10	書籍を紹介する際のフリートークについて
11	インタビューについて
12	レポーターに必要なフリートーク
13	イベント週、合わせ稽古を行い実践力をみにつける
14	イベント週合わせ稽古を行い演技の幅を広げる
15	イベント週本番を通して観客のいる演技方を身につける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 滑舌・アクセント フリートーク(4) 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	城野康子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす						
授業の学習内容	①「声優」としてだけでなく、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の応用 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策						
到達目標	③前期で培ったフリートークの構成力とコミュニケーション能力にさらに磨きをかけ、オーディションに強いアピール力をつける						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	前期を踏まえてフリートークについて応用
2	フリートーク実践① 自分の好きなものを紹介する
3	ミュージカル週、演技力の向上をはかる
4	ミュージカル週、歌・演技・技術の応用を行う
5	フリートーク実践③ 発表を聞き、意見を交換する
6	トピックの拾い方について応用
7	トピックの情報収集について応用
8	インタビューの進め方応用
9	映画を紹介する 内容の伝え方を学ぶ
10	音楽を紹介する 共感の求め方を学ぶ
11	書籍を紹介する わかりやすい伝え方を学ぶ
12	インタビュー実践を行う
13	リポーターに必要なフリートーク
14	全講義を踏まえてのフリートーク演習 テスト
15	we areを通して演技の見せ方を学ぶ
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【パフォーマンス】 Logic Pro & Pro Tools 編集(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優 & スタッフコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	担当教員	新貝 幸広
教員の略歴	1986年デビュー。現在ビクターエンターテインメントアーティスト。作曲家、プロデューサー						
授業の学習内容	Logic Pro・ProToolsなど音声編集ソフトやハードウェアの知識、業界の仕組み						
到達目標	ハードウェアソフトウェアの操作の熟知と自立						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	MACの基本操作・WINDOWSとの違い周辺機器の説明・現在のテクノロジーを詳しく理解出来るようになる
2	LOGIC PRO XとPROTOOLS起動・シャットダウン・ビート・リズム等の入力が詳しく出来るようになる
3	ショートカット操作を用いて操作を早くしてゆく・楽器のコード入力の実用が出来るようになる
4	楽器の録音など外部機器を使い実用が出来るようになる
5	復習・実習
6	作曲の基本とレコーディング・MIXの概念を理解し実用が出来るようになる
7	作曲～プリプロダクション、レコーディング寸前までの作業の流れを理解し実用が出来るようになる
8	作曲基礎・MIX・MAなど音声の基本を理解し実用が出来るようになる
9	楽曲制作・MIXING・録音(楽器など)を理解し実用が出来るようになる
10	Logic、ProToolsを用いてドラムパートの打ち込みの実用が出来るようになる
11	Logic、ProToolsを用いてベースパートの打ち込みの実用が出来るようになる
12	テスト・課題
13	イベントで使用する楽曲の音声編集を理解する
14	イベントで使用する楽曲の音声編集が出来るようになる
15	イベントで使用する楽曲を制作出来るようになる
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名	【パフォーマンス】 Logic Pro & Pro Tools 編集(4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優 & スタッフコース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	担当教員	新貝 幸広
教員の略歴	1986年デビュー。現在ビクターエンターテインメントアーティスト。作曲家、プロデューサー						
授業の学習内容	Logic Pro・ProToolsなど音声編集ソフトやハードウェアの知識、業界の仕組み						
到達目標	ハードウェアソフトウェアの操作の熟知と自立						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
1	前期で学んだLogic、ProToolsの基本操作をおさらいし応用することが出来る
2	Logic、ProToolsを用いて、bpm120・ポップスのドラム打ち込みを理解し応用が出来るようになる
3	Logic、ProToolsを用いて、bpm120・ポップスのコード打ち込みを理解し応用が出来るようになる
4	Logic、ProToolsを用いて、bpm120・ポップスのメロディー打ち込みを理解し応用が出来るようになる
5	Logic、ProToolsを用いて、bpm120・ポップスのフルコーラス楽曲制作を理解し応用が出来るようになる
6	Logic、ProToolsを用いて自由課題曲のプリプロダクション(テーマ・ジャンルの方向性決め)を理解し応用が出来るようになる
7	Logic、ProToolsを用いて自由課題曲のプリプロダクション(作詞・作曲)を理解し応用が出来るようになる
8	Logic、ProToolsを用いて自由課題曲のプリプロダクション(リズムセクションの打ち込み)を理解し応用が出来るようになる
9	Logic、ProToolsを用いて自由課題曲のプリプロダクション(コード・メロディー・アレンジの制作)を理解し応用が出来るようになる
10	Logic、ProToolsを用いて、プリプロダクションした楽曲のリズムセクション(ドラム等)のレコーディングを理解し応用が出来るようになる
11	Logic、ProToolsを用いて、プリプロダクションした楽曲のコード楽器(ギター・キーボード等)のレコーディングを理解し応用が出来るようになる
12	テスト・課題
13	卒業・進級公演で使用する楽曲の音声編集が出来るようになる
14	卒業・進級公演で使用する楽曲の音声編集が出来るようになる
15	卒業・進級公演で使用する楽曲を制作出来るようになる
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名		【制作演習】	必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
		朗読・ラジオドラマ(3)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	担当教員	石橋玲
学科	エンターテインメント総合科 声優コース							
教員の略歴	役者として事務所に所属、俳優・声優・朗読家として業界で活動中							
授業の学習内容	朗読・ラジオドラマといった「読む」題材を用いて、声優に必要な読み仮名やアクセント調べ等下準備の方法、明瞭な発声・滑舌など基礎技術、文章読解力と表現力を養う。大規模な朗読コンテストへのチャレンジを通じ、基礎を大切にしながら他者から認められる表現力を身につけてほしい。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●発声・滑舌などの基礎を身につけ、自力で継続的に練習できるようになる ●原稿・台本の読み仮名やアクセント・言葉の意味を調べられるようになる ●原稿・台本を自力で読解し、表現したいことに自己の表現を近づける 							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	自己紹介・導入 自己アピールができるようになる
2	正しい発声・明瞭な滑舌の技術、アクセント記号と標準語アクセントの調べ方を学ぶ
3	正しい発声・明瞭な滑舌の技術の練習方法がわかる。標準語アクセントを調べて原稿にアクセント記号を書き込める。
4	正しい発声・滑舌・アクセントで指定された文章を読める 濁音の発音を学ぶ
5	正しい発声・滑舌・アクセントで指定された文章を読める 外国語の発音を学ぶ
6	外郎売りでパフォーマンスを行う／基礎的なラジオドラマを学ぶ 声の出し方の応用
7	外郎売りでパフォーマンスを行う／基礎的なラジオドラマを学ぶ 体の使い方の応用
8	外郎売りでパフォーマンスを行う／基礎的なラジオドラマを学ぶ(発表)
9	外郎売りでパフォーマンスを行う／基礎的なラジオドラマを学ぶ(発表) 聞きとりする力を学ぶ
10	朗読コンテスト概要説明。課題作品選びと下調べを行う 作品に対する理解力を深める
11	朗読コンテスト予選に向け、表現目標にそった表現を考え
12	朗読コンテスト予選に向け、表現目標にそった表現を考えを学ぶ 練習する
13	イベント週、合わせ稽古を行い実践力をみにつける
14	イベント週合わせ稽古を行い演技の幅を広げる
15	イベント週本番を通して観客のいる演技方を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □ なし	

科目名		【制作演習】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
		朗読・ラジオドラマ(4)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	担当教員	石橋玲
学科	エンターテイメント総合科 声優コース							
教員の略歴	役者として事務所に所属、俳優・声優・朗読家として業界で活動中							
授業の学習内容	朗読・ラジオドラマといった「読む」題材を用いて、声優に必要な基礎知識・技能を身につけ、自分らしい表現ができるようにする。ボイスドラマでは集団で作品を作ることを学ぶ。学習成果発表の機会を設け、多くの人に表現を届けることについて考えてほしい。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●発声・滑舌などの基礎練習、原稿・台本の読み仮名やアクセント調べなどを自力で継続的に行う ●原稿・台本を自力で読解し、表現したいことをよりの確に表現できるようになる ●的確な表現をすることで、他者から認められるよるこびを知る ●表現が伝わったら、よりよい表現を生み出せるよう振り返る 							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	舞台朗読のポイント学ぶ(コンテスト予選通過者は本選に向けて自己の表現を完成させる)
2	放送朗読との違いを学ぶ(コンテスト予選通過者は本選に向けて自己の表現を完成させる)
3	ミュージカル週、演技力の向上をはかる
4	ミュージカル週、歌・演技・技術の応用を行う
5	ラジオドラマを題材とし、自己の表現を集団の中で活かす方法や集団での作品作りを学ぶ 歌について
6	ラジオドラマを題材とし、自己の表現を集団の中で活かす方法や集団での作品作りを学ぶ 演技力について
7	ラジオドラマを題材とし、自己の表現を集団の中で活かす方法や集団での作品作りを学ぶ 声の使い方について
8	ラジオドラマを題材とし、自己の表現を集団の中で活かす方法や集団での作品作りを学ぶ 表現力を高める
9	制作したラジオドラマを発表し、意見交換を行う
10	舞台での朗読パフォーマンスを学ぶ 声の出し方を学ぶ
11	舞台での朗読パフォーマンスを学ぶ 体の使い方を学ぶ
12	舞台での朗読パフォーマンスを学ぶ 表現方法を学ぶ
13	舞台での朗読パフォーマンスを学ぶ 演技の幅を広げる
14	作り上げた舞台朗読作品を発表し、意見交換を行う
15	we areを通して演技の見せ方を学ぶ
【使用教科書・教材・参考書】 □ なし	

科目名		【 IT 】 ダンス&パフォーマンス(1)	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	石川明子
教員の略歴	講師歴9年、DANCEインストラクター(全国大会KIDS部門優勝など多数の入賞歴のある人材を育成、輩出)							
授業の学習内容	ダンスを通して演技や歌など全てに繋がる表現の基礎の大切さを学び、リズムに合わせて 顔と体の動かし方を学び表現する力をつける							
到達目標	演技や歌など全てに繋がる表現の大切さを理解し、ダンスとともに学ぶことで、自己アピール力をつける							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	体の使い方を知る
2	体と顔の使い方を学ぶ
3	リズムの取り方を学ぶ
4	リズムの取り方を学ぶ・振りの覚え方を学ぶ
5	鏡を使って自分を知る
6	鏡を使って自分を変化させる
7	人に見られることを学ぶ
8	人に見られることから、伝えることを学ぶ
9	自己の過大評価をしながら動く
10	自己の過大評価をしながら動きに変化をつける
11	スターになりきることが出来る
12	テスト・発表 自分の実力をはかることが出来る
13	イベント週を通してリズム感を養うことができる
14	イベント週を通して体の動かし方を学ぶ
15	イベント週を通してリハーサル、本番を経験する
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名 【 パフォーマンス ダンス&パフォーマンス(2) 】		必修 選択	必修選択	年次	1	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	石川明子
教員の略歴	講師歴9年、DANCEインストラクター(全国大会KIDS部門優勝など多数の入賞歴のある人材を育成、輩出)						
授業の学習内容	協調性と自己主張をダンスを通して学び、表現の強弱を身につけ、心を込めるという力など 表現者としての 基礎能力を身につける						
到達目標	心を込めて表現することと、表現の強弱を学び、実践できる表現力を身につける						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	体力の向上をはかる
2	メンタルの向上をはかる
3	ミュージカルを通して舞台上での演技力を身につける
4	ミュージカルを通してリズム感を養うことができる
5	可動域を広げることができる
6	創作ダンス テーマと構成 創作力を高める
7	創作ダンス 音楽と担当を決める 技術を高める
8	創作ダンス 振り落とし・伝え方を学ぶことができる
9	創作ダンス 振り落とし・協調性を豊かにする
10	創作ダンス 協調性と自己主張ができるようになる
11	創作ダンス 演出家の思いを感じれる人になる
12	創作ダンス 表現の強弱を学ぶ
13	創作ダンス 完成度の上げ方を知る
14	テストを行い自分の実力を知ることができる
15	we areを通してパフォーマンス力を高める事が出来る
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名 【 パフォーマンス ダンス&パフォーマンス(3) 】		必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	石川明子
教員の略歴	講師歴9年、DANCEインストラクター(全国大会KIDS部門優勝など多数の入賞歴のある人材を育成、輩出)						
授業の学習内容	ダンスを通して 演技や歌などの全てに繋がる表現力をつけ、様々な設定で実践することができる力をつける						
到達目標	色々なパターンを身につけ 様々な設定に応じた表現ができるようになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	基礎の確認・体力と忍耐力の強化
2	基礎の確認・体力と忍耐力の強化 応用する
3	表現のコントロールを学ぶ
4	表現のコントロール・伝え方を学ぶ
5	表現のバリエーションの増加
6	表現のバリエーションの増加・切り替え
7	表現の切り替え・ギャップの効果を学ぶ
8	表現の切り替え・ギャップの伝え方
9	踊りと感情の強弱・見せ方
10	イメージから踊りに変化させる
11	設定に応じた表現で踊る力をつける
12	テスト・発表 自分の実力をはかることができる
13	イベント週を通してリズム感を養うことができる
14	イベント週を通して体の動かし方を学ぶ
15	イベント週を通してリハーサル、本番を経験する
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名 【 パフォーマンス ダンス&パフォーマンス(4) 】		必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	石川明子
教員の略歴	講師歴9年、DANCEインストラクター(全国大会KIDS部門優勝など多数の入賞歴のある人材を育成、輩出)						
授業の学習内容	感情と表現をコントロールできる力をつけ、見ている人に伝わる伝え方を学ぶ						
到達目標	表現を通して たくさんの人に夢や希望を与えることのできる表現者になる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	基礎の確認・体力と忍耐力の強化
2	創作ダンス 構成(起承転結)
3	ミュージカルを通して舞台上での演技力を身につける
4	ミュージカルを通してリズム感を養うことができる
5	創作ダンス 構成(空間の使い方)を学ぶ
6	創作ダンス 振り落とし・協調性と自己主張(全体の見せ方)
7	創作ダンス 振り落とし・協調性と自己主張(個々の見せ方)
8	創作ダンス 振り落とし(表現の仕方を考える)
9	創作ダンス 振り落とし(表現を形にする)
10	創作ダンス 感情の込め方を学ぶ
11	創作ダンス 完成度の上げ方を学ぶ
12	創作ダンス 心と体のコントロールを学ぶ
13	創作ダンス 伝えるための見せる力をつける
14	テストを行い自分の実力を知ることができる
15	we areを通してパフォーマンス力を高める事が出来る
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名	【 制作演習 】		必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
	MC/ナレーション(1)		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	大橋千絵
学科・コース	エンターテインメント総合科 複数コース							
教員の略歴	NHKに所属後、ナレーター、役者として活動。CM、番組NA、舞台、映像作品など多数出演							
授業の学習内容	1 発声、滑舌など基礎技術と毎日のトレーニング内容をしっかり身につける 表現技術だけでなく、コミュニケーション能力の向上も目指す Only Oneである自分の声の魅力に気づき、自信を持って表現できるようにする 以上のことをふまえて、現場の原稿を活用し、様々な演出を加えたり、個々の魅力を引き出し活かすアドバイスを心がけます の学生の発表を聴き変化に気づく耳を育て、自主練をしながら受講することでスキルアップを感じるはず							2 3 他
到達目標	初見でもスムーズに読め、演出意図をくみ取り表現できる技術を習得。 自分の強みを見つけ、自信を持って表現でき、様々な原稿に対応できる柔軟性を身につける。							
評価方法と基準	出席率と授業態度、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	発声、滑舌のチェック。外郎売り。滑舌練習プリント。課題(歌詞を読む)説明。声で遊ぶ
2	発声・滑舌。アクセント、プロミネンス。それぞれの意味を理解し使いこなす。1月～12月などの数詞もチェック
3	「歌詞を読む」自分の世界観を表現してみる(3分以内。歌詞用意)
4	イントネーションの意味を理解し使いこなす。(大きな木) 一人台詞で距離感をつかむ1。(スタニス)
5	発声・滑舌。一人台詞で距離感をつかむ2。(スタニス) CM原稿2 ベースの読みを見つける。2タイプ
6	発声・滑舌。CM原稿3 より聴きやすく、伝わる読みができるようになる
7	発声・滑舌。CM原稿4 BGMや演出意図にあった読みができるようになる 応える編
8	発声・滑舌。BGMや演出意図にあった読みができるようになる 提案編。CM原稿5 ボイスサンプル
9	発声・滑舌。伝えること1 意味のかたまりを意識することができるようになる(ニュース原稿)前編
10	発声・滑舌。伝えること1 意味のかたまりを意識しながら読むことができるようになる(ニュース原稿)後編
11	発声・滑舌。伝えること2 ・聞く人の立場になりわかりやすく説明する(地図)・MC 基本ポイント
12	発声・滑舌。CM原稿6。振り返りと夏休み課題説明 (お知らせ、紹介、CM)
13	イベント週準備、合わせ稽古を行い自分の役割を確かめる
14	イベント週準備、今までの応用を行い、細かい手直しを行う
15	イベント週本番を通して舞台上での演技を学ぶ
【使用教科書・教材・参考書】 □ アクセント辞典、ストップウォッチ、手鏡、基礎練習プリント(授業で配布)	

科目名 【 制作演習 】		必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
MC/ナレーション(2)		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	大橋千絵
学科・コース	エンターテイメント総合科 複数コース						
教員の略歴	NHKを中心にTV・ラジオ番組などに出演。のち役者・ナレーターメインに。CM・映像作品など多数出演						
授業の学習内容	発声・滑舌などの基礎技術をしっかり身につけ、向上を図ります。また、音の違いがわかる耳を育てます 基礎技術の向上を図りながら仕事の依頼がいつ来てもいい状態をキープしておくことが大切です 前期で習得したことをふまえて、個性を活かす表現にもチャレンジしましょう ナレーション原稿に加え、ラジオドラマ、詩などを用いて様々な表現を考え、実践することで引き出しを増やしていきます						
到達目標	発音の違いに気づき、自分で調整できるようになる 初見でもスムーズに読め、番組や作品の意図を感じ取り、適した表現を選択できるようにする						
評価方法と基準	出席率と授業態度、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	発声・滑舌チェック。夏休み課題発表1 滑舌の復習を行う
2	発声・滑舌チェック。夏休み課題発表2。オーディション原稿1。長文VP原稿配布 原稿を読み方を学ぶ
3	ミュージカル週、稽古を通して演技方を学ぶ
4	ミュージカル週、本番に向けた通し稽古を行い技術を身につける
5	発声・滑舌。VP原稿1 長文原稿を読む際の手順とコツをつかむ 1。CM原稿7
6	発声・滑舌。VP原稿1 長文原稿を読む際の手順とコツをつかむ 2 読みのコツ
7	発声・滑舌。ラジオドラマ1。台詞へのアプローチを習得する
8	ラジオドラマ2。台詞へのアプローチを習得する
9	発声・滑舌。番組ナレーション1。構成を読み取り表現する技術を習得する(声の出し方を学ぶ)
10	発声・滑舌。番組ナレーション2。構成を読み取り表現する技術を習得する(抑揚を学ぶ)
11	発声・滑舌。MCの時の声の出し方を学ぶ
12	発声・滑舌。詩を使い、さまざまな演出、表現方法を体験する。群読ほか。
13	発声・滑舌。詩を使い、さまざまな演出、表現方法を考え発表する。
14	振り返りを行い、自分の実力の成長を知る
15	we areを通して、実践的な滑舌方を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名	【 制作演習 】 MC/ナレーション(3)	必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	大橋千絵
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース						
教員の略歴	NHKに所属後、ナレーター、役者として活動。CM、番組NA、舞台、映像作品など多数出演。						
授業の学習内容	<p>1 基礎技術(発声、滑舌など)の向上を図りながらいつ仕事の依頼が来てもいい状態をキープしておく。</p> <p>2 表現技術だけでなく、コミュニケーション能力の向上も目指す。</p> <p>3 原稿から自由になり、しっかり伝えられる表現者を目指す。Only Oneである自分の声の魅力に気づき、自信を持って表現できるようにする。</p> <p>以上のことをふまえて、現場の原稿を活用し、様々な演出を加えたり、個々の魅力を引き出し活かすアドバイスを心がけます。他の学生の発表を聴き変化に気づく耳を育て、自主練をしながら受講することでスキルアップを感じるはずです。</p>						
到達目標	複雑な文章もスムーズに読み、演出意図をくみ取り、提案・表現できる技術を習得。 自分の強みを見つけ、自信を持って表現でき、様々な原稿に対応できる柔軟性を身につける。						
評価方法と基準	出席率と授業態度、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	発声、滑舌のチェック。外郎売り。滑舌練習プリント。課題(歌詞を読む)説明。CM原稿1
2	発声・滑舌。アクセント、プロミネンス。それぞれの意味を理解し使いこなす。1月～12月などの数詞もチェック
3	「歌詞を読む」自分の世界観を表現してみる(3分以内。歌詞用意)
4	イントネーションの意味を理解し使いこなす。(大きな木) 一人台詞で距離感をつかむ1。(スタニス)
5	発声・滑舌。一人台詞で距離感をつかむ2。(スタニス) CM原稿2 ベースの読みを見つける。2タイプ。
6	発声・滑舌。CM原稿3 より聴きやすく、伝わる読みができるようになる
7	発声・滑舌。CM原稿4 BGMや演出意図にあった読みができるようになる 応える編。
8	発声・滑舌。BGMや演出意図にあった読みができるようになる 提案編。CM原稿5 ボイスサンプル。
9	発声・滑舌。伝えること1 意味のかたまりを意識することができるようになる(ニュース原稿)前編
10	発声・滑舌。伝えること1 意味のかたまりを意識しながら読むことができるようになる(ニュース原稿)後編
11	発声・滑舌。伝えること2 ・聞く人の立場になりわかりやすく説明する(地図)・MC 基本ポイント
12	発声・滑舌。CM原稿6。振り返りと夏休み課題説明 (お知らせ、紹介、CM)
13	イベント週を通して伝えることの重要性を学ぶ
14	イベント週を通して聞く・話す力を身につける
15	イベント週を通じて演出に会う滑舌方を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □ アクセント辞典、ストップウォッチ、手鏡、基礎練習プリント(授業で配布)	

科目名 【 制作演習 】		必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
MC/ナレーション(4)		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	大橋千絵
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース						
教員の略歴	NHKを中心にTV・ラジオ番組などに出演。のち役者・ナレーターメインに。CM・映像作品など多数出演。						
授業の学習内容	基礎技術の向上を図りながら仕事の依頼がいつ来てもいい状態をキープしておくことが大切です。期で習得したことをふまえて、個性を活かす表現にもチャレンジしましょう。ン原稿に加え、ラジオドラマ、詩などを用いて様々な表現を考え、実践することで引き出しを増やしていきます。						前 ナレーショ
到達目標	長文を初見でもスムーズに読め、番組や作品の空気感を捉え、提案・表現ができるようになる。オーダーに応えることができる柔軟性を身につける。						様々な
評価方法と基準	出席率と授業態度、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	発声・滑舌チェック。夏休み課題発表1。聞く・話す力を身につける
2	発声・滑舌チェック。夏休み課題発表2。オーディション原稿1。長文VP原稿配布、原稿の読み方を学ぶ
3	ミュージカル週、滑舌の応用、ステージでの声の出し方を学ぶ
4	ミュージカル週を通して演技での発音方を学ぶ
5	発声・滑舌。VP原稿1 長文原稿を読む際の手順とコツをつかむ 1。CM原稿7
6	発声・滑舌。VP原稿1 長文原稿を読む際の手順とコツをつかむ 2。応用
7	発声・滑舌。ラジオドラマ1。台詞へのアプローチを習得する
8	ラジオドラマ2。台詞へのアプローチを習得する
9	発声・滑舌。番組ナレーション1。構成を読み取り表現する技術を習得する 台本を確認し発音方を学ぶ
10	発声・滑舌。番組ナレーション2。構成を読み取り表現する技術を習得する 滑舌を意識した演技方を身につける
11	発声・滑舌。MCレッスン。オープニングトークを考え、発表してみる 考える力を身につける
12	発声・滑舌。詩を用いて、さまざまな演出、表現方法を学ぶ。群読ほか
13	発声・滑舌。詩を用いて、さまざまな演出、表現方法を考え発表する。表現方を身につける
14	これまでの授業を振り返り、習得した技術を知る
15	we areを通して今までに学んだことの応用、ステージでの声の出し方・発音を知る
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名	【 照明技術 】 照明ベーシック(1)	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
学科	エンターテインメント総合科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	担当教員	中村浩一
教員の略歴	1984年から札幌の照明会社に所属し、舞台、イベント等の照明プラン、オペレートに携わっております。 業界経歴36年目を迎えます。						
授業の学習内容	この授業を受け、舞台に関する基礎と照明に関する基礎を身に着ける。学校のホールを基本とし、外部のイベントなどで、他のホールに行っても、少しでも動けるようになり、危険なことを無くし、与えられた時間内に作業を終える力を身に着ける。						
到達目標	基礎をしっかりと身に着ける。本番オペレートするまでにどれだけの作業が必要なのかを、しっかりと覚える。学校外でも照明作業に参加できるようになる。						
評価方法と基準	定期試験 60%【基礎に関する筆記テスト】 授業への参加度合い 40%【積極的に参加してるか】						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	プリントテキストを使用しての基礎編① 舞台、テレビ照明の用語や劇場等の構造について理解出来るようになる
2	基礎実践(照明機材、コンソールを使っのライティングの基礎①)一般照明、PINSPOTについて理解出来るようになる
3	プリントテキストを使用しての基礎編② 舞台照明やカラーフィルターについて理解出来るようになる
4	基礎実践(照明機材、コンソールを使っのライティングの基礎②)LED、ムービング等について理解出来るようになる
5	プリントテキストを使用しての基礎編③ 照明機材について理解出来るようになる(主に学校にある機材について)
6	基礎実践(照明機材、コンソールを使っのライティングの基礎③)演出効果について理解出来るようになる
7	プリントテキストを使用しての基礎編④ 電気の基礎、電線のノウハウについて理解出来るようになる
8	基礎実践(照明機材、コンソールを使っのライティングの基礎④)前回までの授業を受けて総合的に理解出来るようになる。
9	テストに向けての復習
10	前期定期試験【筆記】
11	前期定期試験【回答】
12	休み明けの為 前期の復習
13	イベント準備週/ライブイベントに向けて、学んだ知識や情報を活かし準備ができるようになる。
14	イベント準備週/ライブイベントに向けて、学んだ知識や情報を活かし準備ができるようになる。
15	イベント/準備週で用意したものを活かし、本番のオペレーションが出来るようになる。
【使用教科書・教材・参考書】 □ なし(プリント用意します)	

科目名		【 照明技術 】 照明ベーシック(2)	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
学科	エンターテインメント総合科		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	担当教員	中村浩一
教員の略歴	1984年から札幌の照明会社に所属し、舞台、イベント等の照明プラン、オペレートに携わっております。 業界経歴36年目を迎えます。							
授業の学習内容	この授業を受け、舞台に関する基礎と照明に関する基礎を身に着ける。学校のホールを基本とし、外部のイベントなどで、他のホールに行っても、少しでも動けるようになり、危険なことを無くし、与えられた時間内に作業を終える力を身に着ける。							
到達目標	基礎をしっかりと身に着ける。本番オペレートするまでにどれだけの作業が必要なのかを、しっかりと覚える。学校外でも照明作業に参加できるようになる。							
評価方法と基準	定期試験 60%【基礎に関する筆記テスト+実技】 授業への参加度合い 40%【積極的に参加してるか】							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	前期復習
2	照明プランニングの基礎① 仕込図を作れるようになる
3	ミュージカル準備/ミュージカル公演に向けて学んだものを活かし、準備が出来るようになる。
4	ミュージカル/ミュージカル公演で、準備したものを活かし本番でパフォーマンスが出来るようになる。
5	照明機材の仕込①(吊込み、配置、配線)等を理解出来るようになる
6	照明実技 仕込、明り作りが出来るようになる
7	照明プランニングの基礎② 仕込図の作成が出来るようになる(1)
8	照明機材の仕込②(吊込み、配置、配線)等を理解出来るようになる
9	照明実技 仕込、明り作りが出来るようになる
10	照明プランニングの基礎③ 仕込図の作成が出来るようになる(2)
11	照明機材の仕込③(吊込み、配置、配線)等を理解出来るようになる
12	照明実技 仕込、明り作りが出来るようになる
13	後期定期試験【筆記、実技】
14	テストの回答とWe areに向けて
15	卒業・進級制作展 We are で 今までに学んだことを活かし、オペレートができるようになる。
【使用教科書・教材・参考書】 □ なし	

科目名		【 音楽・映像史 演技・演出(1) 】	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	中野秀興
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中							
授業の学習内容	台本を自ら制作することで「書く力」をつけ、他人が制作した台本で「読む力」をつけていきます。物語を生み出すことで、物語の構成を知り、必要な情報と必要ではない情報を瞬時に判断する能力を鍛えます。							
到達目標	様々なジャンルの物語を生み出し、自信を持って、書く事、人前で発表する事ができる							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	起承転結の仕組みを知り、台本を作るにあたって大切なこと・必要なことを理解することができる
2	台本制作1 オリジナリティとは何かを考え、斬新なアイデアを生み出すことができる
3	1の読み合わせ(前半)を行う。大きな声を出し、遠くの人にも聞こえる声量を出すことができる
4	1の読み合わせ(後半)を行う。大きな声を出し、遠くの人にも聞こえる声量を出すことができる
5	台本制作2 起承転結を意識し、効果的に物語の内容を伝えることを意識することができる
6	2の読み合わせ(前半)を行う。滑舌を意識し、正しい発音等を心がけることができる
7	2の読み合わせ(後半)を行う。滑舌を意識し、正しい発音等を心がけることができる
8	台本制作3 指定された尺を意識し、適切な文章量を作り出すことができる
9	3の読み合わせ(前半)を行う。書き手が意識した尺を汲み取り、適切な尺で読むことができる
10	3の読み合わせ(後半)を行う。書き手が意識した尺を汲み取り、適切な尺で読むことができる
11	台本制作4 制限時間内に物語を書き上げることができる
12	4の読み合わせを行う。限られた時間の中で作者の意図を読み取り表現することができる
13	イベント週を通じて演技に対する理解力を高める
14	イベント週を通して様々な台本を読み取り創作技術を身につける
15	イベント週を通じて演出の重要性を学ぶ
【使用教科書・教材・参考書】 □	

科目名 【 音楽・映像史 】		必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
演技・演出(2)		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	中野秀興
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース						
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中						
授業の学習内容	書く力、読む力を上げ、想像力を養い、オーディションのエントリーシートや、企業・事務所との対話、自主公演など、様々な場面で必要となる「言葉のスキル」を上げていきます						
到達目標	発想力、構成力、表現力を鍛え、自分の考えをまとめ、伝える能力を身につける						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	台本制作5 指定されたテーマに沿い、登場人物の関係性を明確にし、物語を作ることができる
2	5の読み合わせ(前半)を行う。登場人物の関係性を理解し、その状況に相応しい読みの表現を行うことができる
3	ミュージカル週、台本の読み取り読解力を高める
4	ミュージカル週、作品の役を演じる事の重要性を学ぶ
5	5の読み合わせ(後半)を行う。登場人物の関係性を理解し、その状況に相応しい読みの表現を行うことができる
6	台本制作6 ト書きとナレーションの使い方を工夫し、台詞外の心情描写や情景描写を読み手に伝えることができる
7	6の読み合わせ(前半)を行う。作者の物語に対する意図を理解し、行間のニュアンスを含めた表現をすることができる
8	6の読み合わせ(前半)を行う。作者の物語に対する意図を理解し、行間のニュアンスを含めた表現をすることができる
9	台本制作7 起承転結といった正攻法に囚われず、より物語を効果的に伝える為の構成を練ることができる
10	7の読み合わせ(前半)を行う。複雑化される構成を瞬時に理解し、物語全体に強弱・緩急をつけることができる
11	7の読み合わせ(後半)を行う。複雑化される構成を瞬時に理解し、物語全体に強弱・緩急をつけることができる
12	台本制作8 登場人物全てに役割を与え、過不足のない台詞を構築することができる
13	8の読み合わせ(前半)を行う。作品に登場する全ての人物の必要性を理解し、適正な立ち位置で表現することができる
14	8の読み合わせ(後半)を行う。作品に登場する全ての人物の必要性を理解し、適正な立ち位置で表現することができる
15	we areを通して、さまざまな作品に触れ理解力/読解力を高める

【使用教科書・教材・参考書】 □
こちらで用意します。必要なもの→筆記用具、スマホ等

科目名	【 演劇・映像史 演技実践(1) 】	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	中野秀興
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース						
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中						
授業の学習内容	腹式呼吸で正しい発声をする、姿勢良く綺麗に立つ、自然に歩く、などといった、表現者として最低限必要な能力を身につけていきます。何事も基礎が大事です。今後の夢に大きく関わってくる土台となりますので、「なんとなくできたからこれでいいだろう。」ではなく、例えば発声ひとつ取っても、「極めよう。」という気概で授業に臨んでください。日々の積み重ねが未来の自分を作ります。						
到達目標	基本感情の解放を基とし、人前で表現を行う怖れ、羞恥心を取り除く						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	腹式呼吸の仕組みを知り、表現において正しい発声をすることができる
2	立ち方、歩き方の自分の癖を知り、表現者として望ましい立ち居振る舞いをすることができる
3	エチュード(即興劇)を通し、人前で躊躇・抵抗なく表現することができる
4	与えられる課題に対し、身体表現で伝えられることができる
5	簡単なパントマイムを通し、日常生活においての人間の体の動きを知ることができる
6	三人でのエチュードを行い、二つのことを同時に考え瞬時に台詞に転換することができる
7	とある家族の構成表から、プロフィールを作り、それぞれの関係性・背景を掘り下げることができる
8	台本を用い、登場人物それぞれの関係性、背景を掘り下げ、共演者と擦り合わせを行い認識を共通させる事ができる
9	表現において、背景を踏まえたキャラクターの性格付けができる
10	オノマトペ(擬声語→擬態語+擬音語)を用い、台詞外で意思伝達が可能かを探ることができる
11	様々なオノマトペを話し合い、台詞を一切使わずに物語を作ることができる
12	複数人で、オノマトペのみを用いた物語を伝えることができる
13	イベント週を通して演技力を身につける
14	イベント週を通してアクションの技術を身につける
15	イベント週を通して声の出し方を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □ 教材等はこちらで用意。要動きやすい格好・筆記用具。	

科目名	【 演劇・映像史 演技実践(2) 】	必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
	学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中						
授業の学習内容	例えば、速く走りたいと思っている人がいたとします。ひたすら走り込み、反復することもとても大切なことですが、いつか限界がきます。「どうして速く走ることができないのか?」「どうすれば速く走ることができるのか?」と「考え」「気付く」ことが成長の鍵となります。演技も同様に、ただ台本に書かれた台詞を延々と読むだけでは成長に繋がりません。自分の頭で、考え、気付くために、演ずる以外の様々なアプローチで授業を展開し、演技の基盤を作っていきます。						
到達目標	演ずるとは何かを理解し、舞台、ドラマ、アフレコ等様々な場面で、高い意識で取り組めるようになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	台詞を使わずに、身体のみを使った表現ができ、かつ時間内にコメディをつくらることができる
2	人形(物質)を使い、身体以外での表現を発想することができる
3	ミュージカル週、ステージでの動き方を身につける
4	ミュージカル週、ステージでの動き方/声の出し方を身につける 応用
5	パワーマイムを用い、情景描写、心情描写をすることができる
6	仮想商品プレゼンテーションを行い、大衆に商品の用途・魅力を伝えることができる
7	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。適切な挨拶、立ち方、座り方、発声を行うことができる
8	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。基本的な立ち居振る舞いに、適切なアドバイスができる
9	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。適切な表情、発想、演技表現を行うことができる
10	審査する側・される側に分かれ擬似オーディションを行う。実践を想定したオーディションに対し適切なアドバイスができる
11	演出体験をする。演出家の意図・理想を、演者に伝えることができる
12	演出体験をする。演出家の意図・理想を理解し、実践することができる
13	演出体験をする。オリジナリティを意識した演出を発想し、演者に正確に伝えることができる
14	演出体験をする。演出家のオリジナリティを意識した演出を理解し、実践することができる
15	we areを通して人前に立って演じる技術を向上させる

【使用教科書・教材・参考書】 □
教材等はこちらで用意。要動きやすい格好・筆記用具。

科目名		【 IT 】 ヘアメイク(1)		必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース			授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	蓮川まゆ
教員の略歴	美容学校卒業後、メイクアップアトリエに入社。CMやテレビ、ショー、舞台、ライブ、婚礼などのヘアメイクを行っている								
授業の学習内容	ヘアメイクの基礎を学び、セルフでヘアメイクを行う。								
到達目標	面接やオーディションを想定し、様々な現場によるヘアメイクの違いや特徴を理解し、表現出来るようになる。								
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する								

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	オリエンテーション、道具確認、フルメイクの説明とデモ
2	スキンケア、ベースメイク、アイメイクを学ぶ
3	スキンケア、ベースメイク、アイメイク、アイブロウを学ぶ
4	スキンケア、ベースメイク、アイメイク、アイブロウ、チークリップを学ぶ
5	ヘアアイロン(カール、ストレート)の使い方説明とデモ
6	ヘアアイロンの復習、整髪料の使い方と種類による使い分け方
7	各自ヘアスタイルを調べ、セルフセットのやり方を学ぶ
8	フルメイクの復習
9	色味と入れ方による印象の変化を理解し、キュートなイメージのメイク
10	色味と入れ方による印象の変化を理解し、クールなイメージのメイク
11	セルフでヘアメイクを行い実力を測る
12	前回の注意点をふまえて、セルフでヘアメイクを行う 実力の向上をはかる
13	イベント週を通してステージに立つメイク法を学ぶ(フェイスマイク)
14	イベント週を通してステージに立つメイク法を学ぶ(ヘアメイク)
15	イベント週を通してステージに立つメイク法を学ぶ 自分に合ったメイク法を学ぶ
【使用教科書・教材・参考書】 □ 学校のメイク教材、自分のメイク道具、鏡、綿棒、ティッシュ、前髪を留めるピン、自分のヘア道具、化粧落とし(必要な人)	

科目名		【 IT 】 ヘアメイク(2)		必修 選択	必修 選択	年次	1	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース			授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	蓮川まゆ
教員の略歴	美容学校卒業後、メイクアップアトリエに入社。CMやテレビ、ショー、舞台、ライブ、婚礼などのヘアメイクを行っている								
授業の学習内容	ヘアメイクの基礎～応用を学び、セルフでヘアメイクを行う。								
到達目標	面接やオーディションを想定し、様々な現場によるヘアメイクの違いや特徴を理解し、表現出来るようになる。								
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する								

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	舞台用ヘアメイクの説明、ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク① コテの使い方を学ぶ
2	舞台用ヘアメイクの説明、ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク② 髪の毛のまとめ方を学ぶ
3	ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク① メイクと髪型の合わせ方を学ぶ
4	ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク② 長時間メイクのキープ方を学ぶ
5	自分に合うヘアメイクを見つける① 自分の見せ方を知る
6	自分に合うヘアメイクを見つける② ヘアスタイルを学ぶ
7	自分に合うヘアメイクを見つける③ 自分のカラーに合うフェイスメイクを行う
8	骨格やパーツによる見え方の違いを理解し、自分のイメージに合わせたヘアメイクを知る
9	自分のなりたいイメージに合わせたヘアメイクを学ぶ
10	テーマに合わせたヘアメイクを学ぶ
11	自分が受けたい企業や事務所、オーディションに合わせたヘアメイクを学ぶ
12	各自苦手なところの見直し、足りない技術を補う
13	テストを行い実力を知る
14	試験予備日、前回の反省を活かし実力の向上をはかる
15	we areを通して舞台メイクを習得する
【使用教科書・教材・参考書】 □ 学校のメイク教材、自分のメイク道具、鏡、綿棒、ティッシュ、前髪を留めるピン、自分のヘア道具、化粧落とし(必要な人)	

科目名		【 IT 】 ヘアメイク(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	蓮川まゆ
教員の略歴	美容学校卒業後、メイクアップアトリエに入社。CMやテレビ、ショー、舞台、ライブ、婚礼などのヘアメイクを行っている							
授業の学習内容	ヘアメイクの技術を学び、テーマに応じたヘアメイクをセルフや相モデル行う							
到達目標	面接やオーディションを想定し、様々な現場によるヘアメイクの違いや特徴を理解し、表現出来るようになる							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	オリエンテーション、道具や授業の再確認
2	フルメイクの復習を行う
3	前回の注意点をふまえてセルフメイクを行い、スキルアップを目指す
4	ヘアアイロン(カール、ストレート)の使い方説明、デモ、ヘアセットの技術を学ぶ
5	アイロンの復習、整髪料の使い方と種類による使い分け方を学ぶ
6	セルフでヘアメイク タイトスタイルを学ぶ
7	セルフでヘアメイク ルーズスタイルを学ぶ
8	自分に似合う色を使いヘアメイクを行う
9	骨格やパーツによる見え方の違いを理解し、自分のイメージに合わせたヘアメイクを学ぶ
10	各自ヘアスタイルを調べ、セルフセット ヘアスタイルの種類を学ぶ
11	「季節」をテーマにヘアメイク 流行を知る
12	各自苦手なところの見直し 実力を知る
13	イベント週を通して自分に合うヘアスタイルを学ぶ・実践する
14	イベント週を通して自分に合うメイクを学ぶ・実践する
15	イベント週を通して見せるヘアメイク術を習得する
【使用教科書・教材・参考書】 □ 学校のメイク教材、自分のメイク道具、鏡、綿棒、ティッシュ、自分のヘア道具、化粧落とし(必要な人)	

科目名		【 IT 】 ヘアメイク(4)		必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテインメント総合科 声優コース			授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	蓮川まゆ
教員の略歴	美容学校卒業後、メイクアップアトリエに入社。CMやテレビ、ショー、舞台、ライブ、婚礼などのヘアメイクを行っている								
授業の学習内容	ヘアメイクの技術を学び、テーマに応じたヘアメイクをセルフや相モデル行う								
到達目標	面接やオーディションを想定し、様々な現場によるヘアメイクの違いや特徴を理解し、表現出来るようになる								
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する								

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	舞台用ヘアメイクの説明、ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク① ヘアアレンジを学ぶ
2	舞台用ヘアメイクの説明、ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク② 顔のバランスを整えるメイク方を学ぶ
3	ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク① ステージ映えするメイク術を学ぶ
4	ミュージカルへ向けた舞台用ヘアメイク① ステージ映えするヘアスタイルを学ぶ
5	自分に合うヘアメイクを見つける① メイクの応用、自分に合う色を見つける
6	自分に合うヘアメイクを見つける② 基本のメイク方を実践する
7	自分に合うヘアメイクを見つける③ 基本のヘアセット方を実践する
8	自分の好きな俳優やキャラクター等をイメージしたヘアメイク
9	相モデルでヘアメイクを行い、周りからの自分の印象を知る
10	相モデルでヘアメイクを行い、周りからの自分の印象を知る(ペア変える)
11	自分が受けたい企業や事務所、オーディションに合わせたヘアメイクを学ぶ
12	テーマに合わせたヘアメイクを学ぶ
13	テストを行い自分の技術力を知る
14	試験予備日、前回の反省を活かし、技術の向上を目指す
15	we areを通して舞台上でのヘアメイク技術を向上させる
【使用教科書・教材・参考書】 □ 学校のメイク教材、自分のメイク道具、鏡、綿棒、ティッシュ、自分のヘア道具、化粧落とし(必要な人)	

科目名		【 制作演習 AR-スタジオ実践(3) 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	穂谷しお
教員の略歴	アニメやゲームのアフレコ。現在はナレーションメインで活動中							
授業の学習内容	役への理解を深め、それを表現する。また、自分とは違う解釈を受け入れて柔軟に対応する現場で必要になるスキルをアフレコ実習を通じて身に付けていく							
到達目標	作品への理解を深め、スムーズなマイクワークとリップシンクロを目指す							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	①自己紹介 ②授業説明 喋る・聞く力の向上
2	①作品確認 ②キャスティング ③役を深めていく 作品の理解力を深める
3	アフレコ演習(タイムコード、リアクションなどの確認) アフレコの基礎を学ぶ
4	アフレコ演習(マイクワーク、演技プランの確認、仕上げ) 演技の基礎を学ぶ
5	アフレコ本番 アフレコのリアルな現場の雰囲気学ぶ
6	①作品確認 ②キャスティング ③役を深めていく 作品を知る
7	アフレコ演習(タイムコード、リアクションなどの確認) 台本の読み方を応用する
8	アフレコ演習(マイクワーク、演技プランの確認) マイクワークの応用、現場の基礎を身につける
9	アフレコ演習(総合的に仕上げしていく) アフレコに対する演出方を学ぶ
10	アフレコ本番 アフレコのリアルな現場の雰囲気学ぶ(応用)
11	①作品確認 ②キャスティング ③役を深めていく 演じるキャラクターの理解力を深める
12	アフレコ演習(タイムコード、リアクションなどの確認) 演技の幅を広げる方法を学ぶ
13	イベント週を通して、人前での演技方を身につける
14	イベント週を通して、相手に伝える演技方を学ぶ
15	イベント週を通して、声だけではなく体を使った演技力も身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □ 2色以上のボールペン、アクセント辞典	

科目名 【 制作演習 】 AR-スタジオ実践(4)		必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	エンターテイメント総合科 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	穂谷しお
教員の略歴	アニメやゲームのアフレコ。現在はナレーションメインで活動中						
授業の学習内容	役への理解を深め、それを表現する。また、自分とは違う解釈を受け入れて柔軟に対応する現場で必要になるスキルをアフレコ実習を通じて身に付けていく						
到達目標	作品への理解を深め、スムーズなマイクワークとリップシンクロを目指す						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	アフレコ演習(マイクワーク、演技プランの確認、仕上げ) アフレコの応用、マイクワークを学ぶ
2	アフレコ演習(演技プランの確認、仕上げ) アフレコの応用、アニメーションのアフレコ演技を学ぶ
3	ミュージカル週を通して、人前に立ち演技する技術を身につける
4	ミュージカル週を通して、自分の技術を見直す・評価を知る
5	①作品確認 ②キャスティング ③役を深めていく 作品に対する理解力を高める
6	アフレコ演習(タイムコード、リアクションなどの確認) 表情をつけた演技方を学ぶ
7	アフレコ演習(マイクワーク、演技プランの確認) 発想力を高める
8	アフレコ演習(総合的に仕上げていく) 演出方を学ぶ
9	アフレコ本番 アフレコのリアルな現場の雰囲気を知る 応用
10	①作品確認 ②キャスティング ③役を深めていく 作品に対する理解力を高める 応用
11	アフレコ演習(タイムコード、リアクションなどの確認) 外画のアフレコ基礎を学ぶ
12	アフレコ演習(マイクワーク、演技プランの確認) 外画の演技方を学ぶ
13	アフレコ演習(総合的に仕上げていく) 演技方の復習、見せ方の応用
14	アフレコ本番 アフレコのリアルな現場の雰囲気を知る 応用/評価を行う
15	we areを通して、ステージでの演技力を身につける
【使用教科書・教材・参考書】 □ 2色以上のボールペン、アクセント辞典	